冊子　「はじめに」の「研究成果」　の　補足

大谷良光

研究成果の概要（和文）：

多くの青森県民が参加する津軽の伝統文化であるねぶた・ねぷた祭。本研究はこの祭に子ども、学校等がどのように関わっているのかを明らかにし、学校が地域と連携して祭を授業に取り込む場合のカリキュラム開発を目的とした。下記の調査、①子どもの意識・関わり調査、②学校の取組調査、③祭運行団体の学校関わり・意識調査、④祭り実施校への継続訪問調査の検討から、祭を教育課程に位置づける地域的環境が整っていることが判明した。そして、多様な学年が取り組むことができる汎用「だるまねぶた」と指導計画を開発した。

研究成果の概要（英文）：

Every year a large number of residents of Aomori prefecture take part in the traditional Nebuta and Neputa festivals of the Tsugaru region.

This research investigates how local schools and children are getting involved in these festivals, how schools and the local community cooperate and introduce a curriculum from which festival-related class-based activities in schools can be implemented.

Research Areas:

① The level of children’s awareness of the festivals and the level of involvement of children in the festivals.

② The initiatives that schools are taking to include the festivals into the school curriculum.

③ The level of awareness of the relationship between the festival organizers and schools.

④ Observations of repeated visits to schools that actively partake in the festivals.

The results of these enquiries are promising and indicate that there already exists a good environment for study of the festivals to be introduced into school curriculums.

As a result an easy to use, general purpose “Daruma Nebuta” teaching plan has been developed for students of all ages and abilities.

１．研究開始当初の背景

ねぶた・ねぷた(以下「ねふた」と省略する)は、津軽人の誇りであり地域の貴重な伝統文化で、津軽地方の各市町村で行われている。また、「ねふた」は地域での行事のみでなく、学校において学校内運行や、地域運行を独自に行い、学校行事として伝承しているところも少なからず存在する。これら「ねふた」の制作や運行を行っている教育実践は、地方新聞に掲載されることが多い。しかし、「ねふた」が学校教育とどのように関わっているかの先行研究はない。

２．研究の目的

本研究は、学校が地域を再創造していくために「地域づくり」の一環として「ねふた」を位置づけ、子どもの「ねふた」に対する意識や、学校の「ねふた」への関わりを明らかにし、学校が地域と連携し教育課程を編成する場合の資料として活用するためのカリキュラムを開発し、津軽の子どもたちの人格形成の一端に寄与し、「ねふた」の普及に貢献することを目的とした。

３．研究の方法

本研究の目標は二つあり、それを達成するため期間前半が調査研究、後半が学校での「ねふた」制作等のカリキュラムを開発し、その普及に取り組む事であった。

(1)「ねふた」と学校教育との関わりを明らかにする調査研究

①「ねふた」への子ども意識に関する調査と祭りへの子ども関わり調査

②青森市他３市の小・中学校に限定し、学校として「ねふた」を運行している実際と、学校教育で取り上げている「ねふた」に関わる教育課程・教育内容等に関する学校の取組調査、

③青森市と弘前市の「ねふた」祭運行団体が学校の「ねふた」の取り組みに対してどのように関わっているか、また・関わろうとしているかの意識調査、

④②の調査で明らかになった祭り実施校への継続訪問調査

(2) 学校での「ねふた」制作等のカリキュラムの開発とそれらの普及

①前半の調査結果から校種別カリキュラムを構成する。

②モデル校での実験授業を行い、カリキュラム評価を行う。

③普及のための冊子を作成し関係者に配布するとともにマスコミを通して県民に幅広く報告する。

４．研究成果

研究成果の概要を、研究方法を踏まえて報告する。

(1)「ねふた」と学校教育との関わりを明らかにする調査結果

①－１　「ねふた」の子ども意識調査

小・中・高校生の８割以上は、「ねぶた・ねぷたが世界に誇れる祭り、日本有数の祭り」と思い、「古くから伝わる祭りを大切にし、自分たちの子どもに伝える必要がある」と考えていた。そして「学校の授業・行事に祭りや制作を取り入れたほうがよい」と５割強の子どもが考え、高校生を含め２割の子どもが「ねぶた師・ねぷた絵師になれるならばなってみたい」と思い、４割の子どもがラッセランドや制作小屋に出かけていた。

①－２　祭りへの子ども関わり調査(小４)

祭りの観覧率は 97 %、運行への参加率は 70 %で、その内の多くの子どもが青森ねぶたはハネト、弘前ねぷたは曳き手として参加していた。また、制作への関わりは、紙貼りが主であった。

②学校の取組調査(青森市、弘前市、五所川原市、黒石市)

小学校では全市とも 5 割近い学校が何らかの取り組みをし、中学校も、平均して 4 割の学校が何らかの取り組みをしていた。また、「ねふた」に関する学習や講話を行っている学校は、小学校は全体で約２割が、中学校は青森市、弘前市で各１校のみで、他は実施していなかった。また、活動や練習のための教育課程での領域は、小・中学校とも「総合的な学習の時間」が多く、次に小学校は「PTA子ども会活動」で、中学校は「行事」であった。

③祭運行団体調査

大型ねぶた中心の青森市と地域ねぷた中心の弘前市ではその結果に異なりがあった。ただ、現在学校と何らかの関わりを持っている団体は約 3 割、学校からの要望があれば対応できるとする団体が 6 割、学校で「ねふた」を取り上げることに意義があると考えている団体が 9 割を超えていた。

④②の調査で明らかになった祭り実施校への継続訪問調査

各市で小・中・高等学校各1校に絞り、2年間継続訪問調査を行った。どの校も、「ねふた」の制作から祭り運行まで行っている学校である。各校とも学校の伝統行事として継続し地域と連携し喜ばれていた。行事の推進者としての「ねぶた馬鹿」教師の役割が大きいことも語られたが、問題点として担当する教師の負担が大きく、年度における力の入れ方に異なりもある学校もあった。

(2) 学校での「ねふた」制作等のカリキュラムの開発とそれらの普及

上記の調査から、祭りには子ども達が多数参加しているが、学校教育で取り上げているところはそう多くなく、ねぶた・ねぷた制作から祭参加まで本格的に取り組んでいる学校は極めて少なかった。活動しているところも「ねふた馬鹿」といわれる「ねふた愛好家」の教師・校長の奮闘により実施されているところが多く、また、学校は教育改革の嵐や、新学習指導要領（2008 年版）による時間数の確保で、「ねふた」を授業として積極的に取り組む余裕がないと思われた。

しかし、子ども達は「ねふた」祭りや学校での取り組みを肯定的に考え、祭り運行団体も学校の要望があれば協力したいと考えており、地域の環境は整っていると思われる。学校に「ゆとり」と自由裁量の時間が生かされ、予算的措置が取られるならば「ねふた」への取り組みはもっと増えると考えられる。

上記の状況から「ねふた」の校種ごとのカリキュラムを提示するより「汎用のカリキュラム」を提示することの方が妥当であると判断した。そこで、カリキュラムを構成し、大学生を対象に模擬授業を行い、その総括をへて、弘前市立北小学校の４年生を対象に開発した「だるまねぷた」の制作の実験授業（出前授業）を展開しカリキュラム評価を行った。

これらの成果（報告書）とそこから得られた知見を「提言」としてまとめ、青森市、弘前市に届け、記者会見で発表した。また、北小学校出前授業へのマスコミ取材を依頼し広く県民に報告した。さらに、冊子、大谷良光編著、『ねぶた・ねぷたと津軽の子ども・学校』を刊行し関係者に配布した。

５．報道関連情報

①2012年6月記者会見

「ねぶた・ねぷたと学校教育との関わり４市調査と最終報告書」

東奥日報（朝刊）、陸奥新報（朝刊）、ＮＨＫ、

②2011年6月　「弘前市立北小学校出前授業」取材

青森放送（ＲＡＢ）、

東奥日報（朝刊）、陸奥新報（朝刊）

③2009年7月記者会見　「ねぶた・ねぷた運行団体調査の報告書と２市への提言」

ＮＨＫ、青森放送（ＲＡＢ）、

東奥日報（朝刊）、陸奥新報（朝刊）、　毎日新聞（朝刊）、河北新聞（朝刊）、読売新聞（朝刊）、朝日新聞

陸奥新報は社説「弘前ねぷた 学校と地域の連携を考えたい」でも紹介

④2008年7月記者会見　「青森ねぶた・弘前ねぷたへの子ども意識と祭りへの子ども『思い』調査の報告書と２市への提言」

東奥日報（朝刊）、陸奥新報（朝刊）、　毎日新聞（朝刊）、河北新聞（朝刊）、読売新聞（朝刊）

メモ